



## こもれびの森の樹木(13)

こもれびの森は冬の殺風景だった雑木林からようやく春の兆しが見え始め3月の最終の活動日(3月23日)には低木のウグイスカグラの可憐な花は盛りが過ぎようとしていました。代わってはるか高く見上げる梢の先にコブシの花が見事に咲き誇っていました。

2年前に大野台地区の散策路沿いに樹名板を付けた樹木を記してきましたが、今回の3種で28種全ての樹木となります。次号からはこもれびの森の珍しい木、特徴ある木を紹介します。

**アカメガシワ**(トウダイグサ科アカメガシワ属)は本州から沖縄に分布する落葉高木で、川沿い、崩壊地などにいち早く生えるパイオニア樹木です。春は新芽が鮮やかな赤色、秋は黄葉が美しい。樹皮は灰褐色、なめらかで縦に筋が入ります。葉は菱形に近い卵形で長さ20cm以上になります。花は長めの穂状で淡い黄色、花期は6~7月。



原木はヒラタケ栽培に利用されます。名前の由来は新芽が赤くカシワの葉と同じように葉に食物をのせるのに使ったことからといわれています。



**ハリギリ**(ウコギ科ハリギリ属)は日本全国に広く分布する落葉高木。大きいのは高さ25m、直径1mに達します。樹皮は老木では黒褐色、マツの樹皮に似て縦に割れ目が入りますが、若木や若い枝に鋭いトゲがあり、直径20cmを超える頃からトゲがなくなるのが特徴です。最近、活動地の各所に若木が生えているのが目立ちます。葉は掌状に5~9に裂け縦横10~30cm位でモミジ形です。春先の若葉は香りがよく、天ぷらにして食べます。名前の由来は材がキリに似ていて、トゲがあることによります。家具材として利用価値が高い。

**ネムノキ**(マメ科ネムノキ属)は本州以南の川岸や原野に多い落葉高木です。樹皮は灰褐色で皮目が多く、枝葉ジグザグに屈曲します。ネムノキが目立つのは葉と花ですね。葉は長さ20~30cmの2回偶数羽状複葉で羽片は7~12対が対生に小葉が15~30対に対生します。



この小葉が夜間閉じて眠るように見えるところから名前の由来となっています。花は6月ごろ枝先に淡紅に花房をつけます。熱帯地方の雰囲気のある花が咲くと夏本番という気がします。(林)

## 木もれびの森の山菜と木の芽

森には多種類の山菜(野草?)が生えています。しかし山菜摘みが出来る群生地があるという事ではありません。山菜と言えば、思い出されるのが春の七草と思いますが、その中で、森の中ではセリ・ナズナ(ペンペン草)・ゴギョウ(ハハコグサ)・ハコベラ(ハコベ)・ホトケノザ(コオニタビラコ)などが顔を出し始めています。草餅に良く使われる「ヨモギ」は、これからが摘むのに最適な季節です。ノビルやタンポポが、春の香りを楽しませてくれる山菜の一つである事をご存知でしょうか。

山菜料理に特別な調理方法は無く、それぞれの特徴をよく知り、持ち味を生かされるとよいのです。処理と保存は、アク抜き、塩漬、冷凍、瓶詰め、味噌漬、果実酒、などです。山菜にはドクゼリのように、毒を有するものもあります。よく観察して少量食することです。



セリ



ナズナ

**セリ**(芹) セリ科 セリ属 葉 1～2回3出羽状複葉 7・8月頃白い小さな花を枝先につける。

**ナズナ**(薺) アブラナ科 ナズナ属 2年草 根元の葉は深く羽状に切れ込む。実の形を三味線のばちにたとえてぺんぺん草の名もある。

**ゴギョウ** (御行)(母子草) キク科 ハハコグサ属 似たものにチチコグサ、チチコグサモドキがあるが、白い綿毛に覆われた、兎の耳のような葉で見分ける。

**ハコベラ**(繁縷) ナデシコ科 ハコベ属 1・2年草で茎も葉も水みずしい緑色、花期は長く・春から秋まで咲き続けます。

**コオニタビラコ**(子鬼田平子) キク科 ヤブタバコ属 2年草 根元の葉は、4～10 cm羽状切れ込み、頭花は直径1㍉ほど。黄色の舌状花で日が当たっているときに開く。

**ノビル**(野蒜) ユリ科 ネギ属 蒜はネギやニラの総称 白い球形の鱗茎はめずらしく生で食すことのできる野草です。葉は細く長さ30～50㍉断面三ヶ月形。

**タンポポ**(蒲公英) キク科タンポポ属 山菜としてのタンポポは、葉も花も根も味わえるのです。

**ヨモギ**(蓬) キク科 ヨモギ属 ヨモギは春の若菜を使うので春と思われがちですが図鑑では秋の植物です。種類も多く秋の花は地味だけれども目を楽しませてくれるかわいい花です。

樹では何といっても春一番に芽を吹く**ニワトコ**。花の蕾状態のもの(山のブロッコリー)や、**コブシ**の花は、森の春を知らせてくれる代表的な食せる芽や花です。ニワトコは葉が開くと同時に開花、その前の蕾を山菜として食すのです。またコブシは開き始めた花が美味しいとのこと。(野口)



ゴギョウ



ハコベラ



コオニタビラコ



タンポポ



ノビル



ヨモギ

## 木もれびの森の野鳥たち 4月

### <冬鳥と夏鳥の交差点>

4月は、多くの野鳥たちにとって繁殖のための渡り(移動)の季節。

木もれびの森で冬を過ごした**ツグミ**などの冬鳥は北の国へ、**アオジ**や**ルリビタキ**たちは標高の高い山へと、渡りの開始です。また、南の国からは夏鳥の**ツバメ**や**キビタキ**などがやってきます。4月は、冬鳥と夏鳥が交差していく、ちょっと楽しい出会いのある月です。

木もれびの森で一年を暮らす野鳥たちの中には、すでに巣作りや子育てに入ったのもいるようです。

●**エナガ**の巣は、高木の枝の股にコケなどを使って袋状の外装を作り、その中にたくさんの羽毛をつめてふかふかのベッドを作ります。いったい森のどこからと、思うほどです。

●**キツツキ**の**コゲラ**や**アオゲラ**は、木にくちばしで巣穴を掘ります。コゲラは体が小さく硬い生木は掘れないので、枯れ木や枯れ枝を利用します。体の大きなアオゲラは、太く立派なくちばしで生木に大きく深い穴を掘ります。

●**シジュウカラ**や**ヤマガラ**は自分では巣を作らず、木にできた穴を利用します。その穴の中にコケなどを運び込みやわらかなベッドを作ります。

この季節ならではの野鳥の暮らしを、遠くからそっと見守りましょう。近寄っての観察は繁殖放棄を招くのでご注意ください。(瀬尾)

